

謹  
呈  
水  
土  
路  
介  
文

# 自動車旅行計画案

姉妹都市ボストン・パリ訪問

## (1) 動 機

我々青年は外国に深い関心を持ち、広い世界に雄飛したいという大きな夢を抱くものである。今日世界の交通機関は発達し、外国に行くことは手軽なことになって来てはいるが、我々青年の海外渡航は、そう簡単なことではない。ほとんど全ての青年は、それを悟るまでもなく、目先の問題に追はれて数少ない夢の一つを棄てさるのが常である。

私達二人は以前より人一倍外国に関心を抱き、それでのテーマを研究しつゝ世界に雄飛したいという希望を誰よりも強く持つて来た。しかも私達の考え方の根幹となるものはいかにして全人類を通じたまとまりを作り上げるかということである。これは今日の世界を作り上げて来た人類にとって、次の課題となるもので我々の関心も当然そこにあるわけだが、それは、感情の交流、意見の交換、人間の交流、文化の交流によって世界の人間の一人一人が親しく結びつくことからはじまるものだと考える。

昨年夏、京都市長高山義三氏が、ボストン、パリ、キヨウトが姉妹都市になり、古くから持つ、学術、文化の交流を計

り、国際親善に、市の発展に寄与しようという案を発表された。この国を異にする市と市が親しく結びついて行こうという考えは、国を超えて人間が連がり合うことであり、私達の考えていることと一致するものと考え、我々の出来る範囲で役に立ちたいと考え始めた。又それに加えて広島の青年が広島市長のメッセージや桜の苗木を持ってヨーロッパの各都市を廻る話や、アメリカのある都市の新聞売子が、その都市の何周年目かの行事として都市の宣伝に来日したと云う記事を見て、世界の人々がお互の友情を深めるよう努力していることを知り、我々の手で、ボストン、パリを自動車で結び、姉妹都市計画の一役買い、又、我々の夢も達成たいと強く考えるに至った。

## (II) 趣旨

私達は、京都市長高山氏発案のボストン、パリ、キヨウト姉妹都市計画に対しては、観光、文化、学術交流は当然のこと、もっと深い、国をこえた都市の市民が人間的な関係で親密になるべきだと考えている。パリもボストンも譽

るべき歴史と文化を持ち、京都といろいろ共通の面を持つて  
いる。それらの交流を計る意義は勿論重要であるが、今日の  
世界状勢を見ると、表面的な交渉だけでは決して強く結びつ  
いて行くことは出来ない。国や人種をこえた人が一つにま  
とまるためには、先づ互いに深く知り合い、良く理解し合い  
出来るだけ多くの接触の機会を持つことが何より肝要である。  
姉妹都市という計画をこの意味で進めるならば、引いては国  
と国と関係を親密にし、人種の間の壁を取り去って平和な世  
界を作り上げることになる。そこで私達は、そのイニシアチ  
ブを取って市民同志の接触の場を作るため、後に述べる使命  
を持って京都へボストンへパリを自動車で結ぶ計画を考えた。

### (III) 使 命

先の動機及び趣旨に於て、計画の根本的な考え方を述べた  
が、こゝではこの計画の使命を一層明確にし、その使命を果  
す具体的方法を述べる。大きく分けると五つに分れる。

- 1) 姉妹都市計画に関して市民の関心を高め計画の実現発展  
及び文化学術交流を円滑にするための礎地を作る。

具体的方法としては、この計画を実現する事自身がそれになるが、我々は市民の皆さんに機会ある毎にこの計画を詳しく知つてもらひ、学生のとつひな行動と云うより市民と密接に結びついた市民の総意にもとづく計画の実現の方向にもつて行くつもりである。

2) パリ及びボストン市民と京都市民との間によく理解し合つた親しい関係を作る。

具体的方法としては、我々が走破する道中は勿論、両都市に出来る限り滞在してあらゆる面から観察してそれを市民の皆さんに逐一報告する一方、当地に於て持参した資料を使って我々京都市民として市の文化、学術、産業、風俗、歴史、風景等、あらゆる機会を通じてパリ、ボストンの市民に知らせて近親感を深める

3) 特に青少年の眼を広く海外に聞くと共に正しい知識を与える、両都市の青少年が自分達の力で親しく結びつく核にする。

この計画に最も关心を持つてくれるるのは青少年だとと思う。我々としても出来る限り彼等に海外に眼を聞く機会を作るべきだと考えた。具体的には(I)で述べた核にこの計画を青少年に詳しく説明する一方、彼等の絵画

手紙、作文券を募り両都市に運んで展覧会や交換を行ひ彼等同志の結びつきの糸口をつけたいと思う。又高校生、大学生に対しては両都市の学生が強く結びつく様努力し、それを基礎にした留学生交換の具体的交渉を我々学生の手で行ってみるつもりである。

- 4) 我々各々の専門の知識を深め、又各自の持つテーマを研究する一方、広く外国を見聞し姉妹都市及び市の発展に協力し、引いては微力たりとも社会に盡くす。

我々は自動車による旅行であり行く先々の国の人々と最も接觸しやすく、又深く觀察出来る。これは飛行機や鉄道の発達によって飛石的な旅しか出来ない時代には見逃がせない意味がある。専究テーマについては後にその概略を述べる。

- 5) 日本及び京都の存在、産業、文化、歴史、自然、社会、券について通じる国の人々に正しい知識を与え、特に京都の觀光面を紹介する。

すなわち我々は日本及び京都を紹介する出版物、スライド、展示券を携行し、出来る限りの機会を通じ説明し上の使命を果す。

## 研究テーマ

鎌田克則 最近青少年の不良化が大きく社会問題化しているが、これに対する方策として、オーストリア戦後ドイツ敗戦による青少年不良化防止に役立ったワンダーフォーゲル運動に关心を持ち現在実践しつゝある。だが資料不足と未経験のためその真価を發揮出来ないので、本場であるヨーロッパの青少年の活動を見、共に活動したいと考えている。

長谷川高士 現在専攻している農業上の問題から、農業水利、灌漑施設の地方による相異、先進国、後進国の土地利用法の比較、工業国に於ける農業の地位などを観察、研究し、我国や東南アジア諸国の農地開発に寄与する。

## (IV) 計画概要

- 1) 期間 1959年3月出発 約135日間
- 2) 構成

鎌田克則 立命館大学法学部学生

立命館大学フォーベル会

京都市出身

長谷川高士 京都大学農学部学生

農業工学専攻・京大探検部

京都市出身

### 3) 行程

日本 — サンフランシスコ 約15日 船便

サンフランシスコ—ニューヨーク—ボストン 約40日 自動車

ボストン — リヴァプール

リヴァプール — ロンドン — ハリ } 約30日 船便及び自動車

パリー—ベルリン—マルセイユ 約25日 自動車

マルセイユ — 日本 約25日 船便

※ マルセイユからは事務的手続やその他の事情が許

せば陸路による世界一周を考えている。

### 4) 費用

準備費 ￥100,000-

渡航費

日本 — アメリカ  
アメリカ — ヨーロッパ  
ヨーロッパ — 日本 } ￥220,000-  
} ￥180,000-  
} ￥440,000-

車 輛 輸 送 費	¥ 260,000 -
滞 在 費(通信費その他を含む)(2人)	
アメリカ(40日) (¥2000-/1日.1人)	¥ 160,000 -
ヨーロッパ(35日)(¥1500-/1日 1人)	¥ 105,000 -
か ソ リ ン	¥ 110,000 -
予 備 費	¥ 100,000 -
合 計	¥ 1515,000 -

二  
外

姉妹都市ボストン・パリ訪問

Fig - I

自動車旅行コース

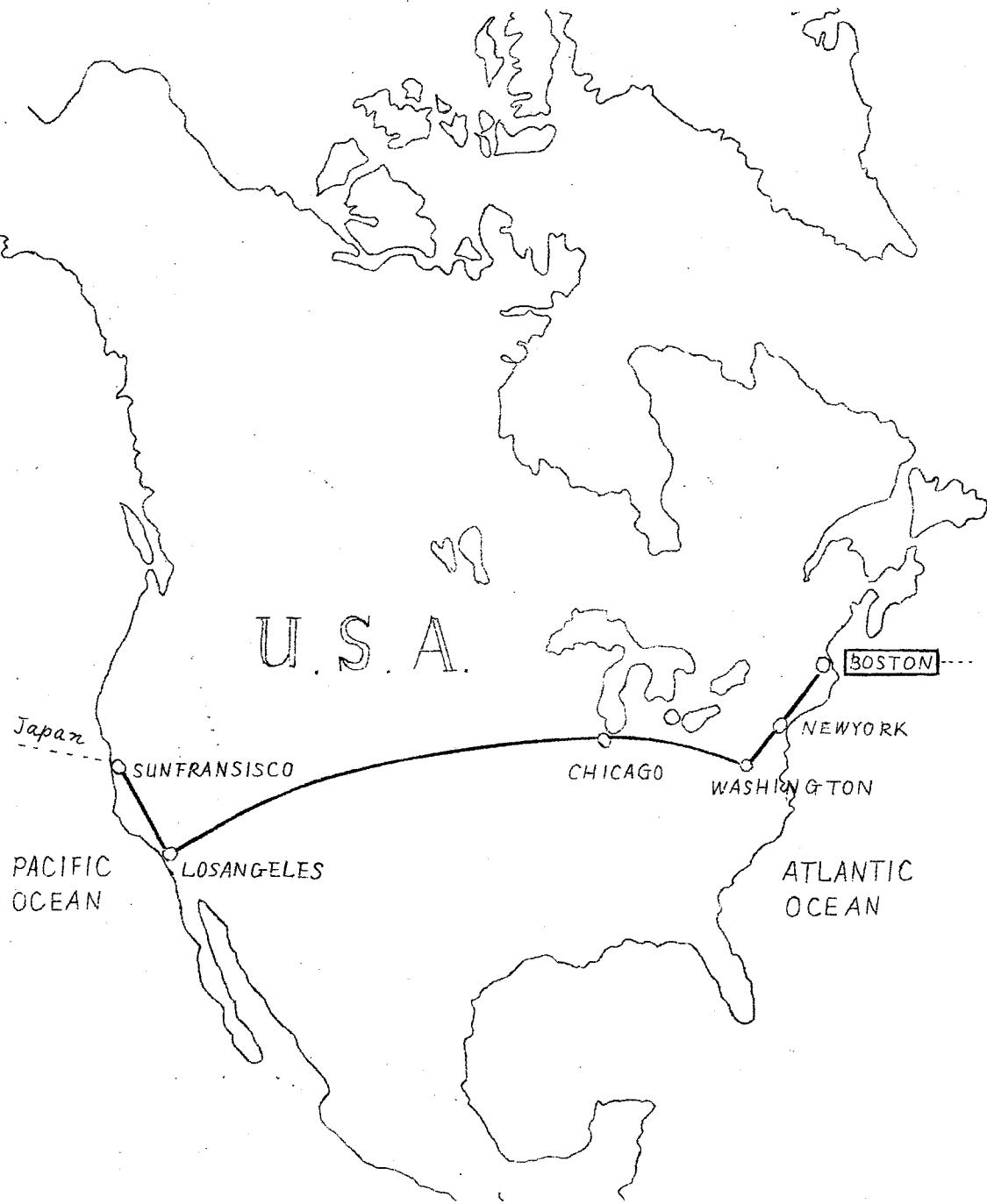
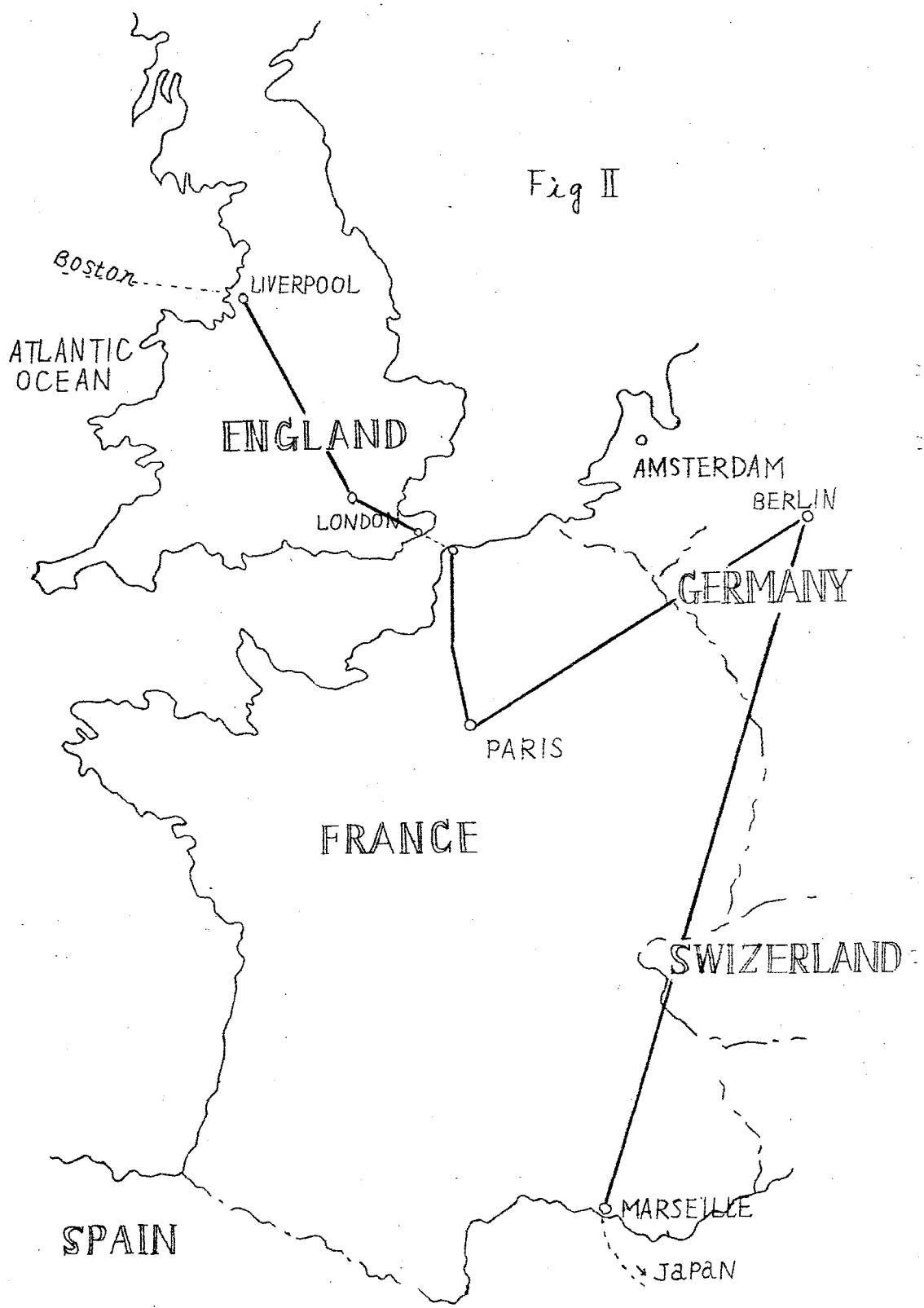


Fig II



連絡所

京都市中京区麿屋町竹屋町下川

鎌田方 Tel 3-3475

1958. 2. 18.